

2026年3月9日

中性子施設連携活動部会の2025年度活動報告部会活動報告及び次年度活動計画

部会長 加美山 隆

1. 本部会の目的

中性子施設連携活動部会は、中性子利用施設相互の連携に関する活動を支援し、中性子科学分野の発展に貢献する。

2. 部会員数

23名 (2026年2月18日現在)

3. 活動内容(2025年度)

1) 部会参加施設の増強。

- ✓部会未参加施設に働きかけ、参加施設が2施設(KUANS、SHI-ATEX)増加。  
2026/4以降、さらに1施設(KURNS-LINAC)が参加予定。

2) 国内中性子関連施設に関する情報交換の推進。

- ・各施設の将来的な安定的な稼働体制維持を目指す情報交換活動をスタート。  
✓各施設で利用している外部業者のリスト化。

3) 関連する会合への参加。

・加速器中性子連携 TF

日時： 2025年8月8日(金) 12:00-13:00 (日本加速器学会会期中)

会場： 東京都市大学世田谷キャンパス 7号館3階 73A + Zoom 配信

プログラム：

- ・趣旨説明
- ・「加速器超冷中性子源」 川崎真介 (KEK)
- ・「小型超伝導加速空洞の応用－医療用 RI 生産に向けて－」山下了 (NovAccel)
- ・議論

主催： 加速器中性子連携 TF

後援： 日本中性子科学会、

日本中性子科学会基礎基盤部会、日本中性子科学会施設連携部会

世話人： 北口雅暁 (名古屋大)、岩下芳久 (阪大)

参加者数： 31名 (対面19名+リモート12名)

目的を持って作られている小型加速器中性子源の事例に基づき、その設計理念や運用体制について議論した。来年度以降もこの TF のミーティングを開催することが提案された。

4) 部会長選挙。

- ・2024年度の部会会合での合意に基づき、2025年4月に部会員内の互選で部会長を選出。2025年度からは引き続き加美山が2期目の部会長を担当。

4. アンケート結果への対応について。

・会員拡大

- ✓未参加施設への参加働きかけ、参加済み施設関係者への参加勧誘。

参加施設数は7施設(HUNS、QSC、JRR-3、MLF、RANS、NUANS、KURNS)から10施設(+ AISTANS、KUANS、SHI-ATEX)へ(4月以降11施設(+ KURNS-LINAC)の予定)。

- ・学会への貢献
  - ✓持続可能な中性子施設群を目指す施設間情報共有活動をスタート。
- ・KUR 運転終了への対応
  - ✓KUR 運転終了後に複合研の中性子利用の一つの柱となる KURNS-LINAC を部会の一員として参加するよう勧誘。4月以降部会への参加で了承してもらった。

#### 5. 次年度の活動計画。

- ・「持続可能な中性子施設群」活動
  - ✓引き続き業者リストの増強と共有を行う。
  - ✓中性子源運転者間の相互理解と情報共有を目指す懇談会を開催できないか議論。
  - ✓運用に関する施設間懇談会の開催。
  - ✓技術的な情報共有の場の構築。
- ・施設に関連する他学会等との連携活動推進
- ・学会年会におけるセッション開催。